

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「構成を考えて、提案する文章を書こう」 教材名「デジタル機器と私たち」

2 単元の目標

原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（〔知識及び技能〕(2)ア）

筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。（B(1)イ）

デジタル機器との関わりについて、理由と根拠が対応する提案文を構成する学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（B(1)イ）	①デジタル機器との関わりについて、理由と根拠が対応する提案文を構成する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

デジタル機器との関わりについて、理由と根拠が対応する提案文を構成する。この教材では、根拠の確認表・構成図・提案文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

出典・調査対象・条件を確認し、未確認の数字は使わない。端末を使わない児童も学校の共通場面を題材にできる。想定する難しさは、出典のない時間や割合を加える、機器の禁止だけを結論にする。評価では、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えているかを、根拠の確認表・構成図・提案文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 単元の終わりに残す記録を確かめ、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～4	○利用上の課題を学校で話せる範囲から選び、事実・経験・意見を分ける。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）
第3次	5～7 （本時）	○利用上の課題を学校で話せる範囲から選び、事実・経験・意見を分ける。提案、理由、根拠、予想される疑問を構成図にし、段落の順を替えて筋道を比べる。読み手の質問を受けて説明を補う。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	8	○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (5/8)

(1) 本時の目標

筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(B(1)イ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 ○「この提案に納得してもらうには、どの順に理由と事実を示しますか」 【めあて】デジタル機器との関わりについて、理由と根拠が対応する提案文を構成する。 〈予想される児童の反応〉 ・ 自分の経験だけでは全員に当てはまるとは言えない。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「この提案に納得してもらうには、どの順に理由と事実を示しますか」 利用上の課題を学校で話せる範囲から選び、事実・経験・意見を分ける。提案、理由、根拠、予想される疑問を構成図にし、段落の順を替えて筋道を比べる。読み手の質問を受けて説明を補う。 読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・ 自分の経験だけでは全員に当てはまるとは言えない。 ・ 反対の考えへの説明が必要だ。	出典・調査対象・条件を確認し、未確認の数字は使わない。端末を使わない児童も学校の共通場面を題材にできる。 想定する難しさ：出典のない時間や割合を加える、機器の禁止だけを結論にする。 評価では、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えているかを、根拠の確認表・構成図・提案文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。 (発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 根拠の確認表・構成図・提案文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 反対の考えへの説明が必要だ。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この提案に納得してもらうには、どの順に理由と事実を示しますか」。中央は、根拠の確認表・構成図・提案文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

